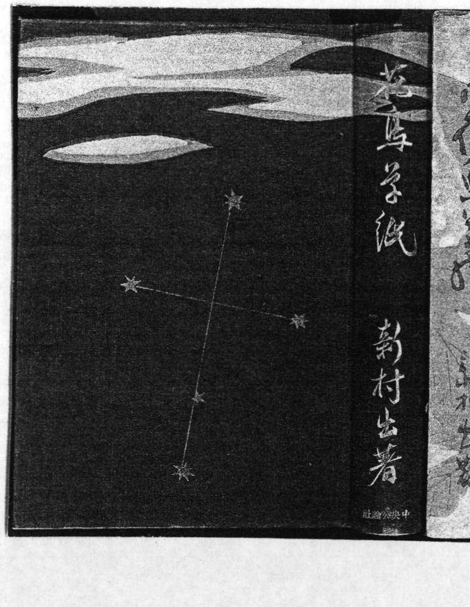
新村出（しんむら いづる）　國語學者、文學博士。明治九年十月四日山口縣生れ、昭和四十一年八月十七日歿（一八七六―一九七七）。號小山太郎、小山居主人、重山、重山老史等。山口縣令關口隆吉の次男、新村家の養子。明治二十一年東京帝國大學文科大學博言學科卒。二十五年東京高等師範學校教授、文部省國語調査委員會補助委員、四十一年京都帝大教授、昭和二年帝國學士院會員、二十一年文化勲章受章。『新村出全集』全十五卷（昭和四十八年―四十八年筑摩書房）刊。

著書『研究學講演集・第三册』（合著、明治四十一年九月四日富山房）、『文祿慶長役捕虜實記』（校、明治四十四年八月二十五日歷成館）、『ダンテの研究』（合著・京都文學會編、大正十年九月十八日京都・星野書店）、『大阪文化史―大大阪記念講演集』（合著・大阪毎日新聞社編、大正十四年八月二十日大阪毎日新聞社）、『南蠻廣記』（大正十四年九月五日岩波書店）、『典籍叢談』（大正十四年九月一日岩波書店）、『續南蠻廣記』（大正十四年十一月十日岩波書店）、『ぎやど・ぺかどる（下卷）妙貞問答 破提宇子 顯證錄』（解說、昭和二年八月二十日日本古典全集刊行會）、『名家の旅』（横山桐郎・島崎藤村・小高信水合著、昭和二年十月五日大阪・朝日新聞社）、『東方言語史叢考』（昭和二年十一月二十五日岩波書店）、『異國情趣集』（編、昭和二年十一月十五日京都・更生閣書店）、『イソップ物語』（譯、昭和四年七月二日アルス「日本兒童文庫」）、『薩道先生景仰錄（吉利支丹研究史回顧）』（昭和四年十一月十日ぐろりあそさえて「ぐろりあ叢書」）、『琅玕記』（昭和五年五月二十五日改造社）、『南國巡禮』（昭和五年八月

十日梓書房）、『東亞語源誌』（昭和五年十一月二十日岡書院）、『言語學概說』（昭和八年二月十五日國文學講座刊行會、京都・文獻書院『續國文學講座』）、『典籍散語』（昭和九年二月十八日書物展望社）、『國語學講習錄』（柳田國男 小倉進平 金田一京助 合著・國語學講習會編、昭和九年四月一日岡書院）、『モリ大記念論集』（合著、昭和九年十月十日文庫・川瀨日進堂書店）、『史傳叢考』（昭和九年十一月二十五日樂浪書院）、『遠西叢考』（昭和十年二月十五日樂浪書院）、『花鳥草紙』（昭和十年五月十五日中央公論社）、『WESTERN INFLUENCES ON JAPANESE HISTORY AND CULTURE IN EARLIER PERIODS（1540－1860）』（昭和十一年一月 KOKUSAI BUNKA SHINKOKAI.「K.B.S. Publications Series-B」）、『INFLUENCIAS OCCIDENTALES EN LA HISTORIA Y EN LA CULTURA DEL JAPON, DURANTE LOS PRIMEROS TIEMPOS（1540－1860）（新村出氏講演錄－西語版）』（昭和十一年四月十日國際文化振興會「VERSION DEL INGLES POR IGNACIO MEDINA.－JR.」）、『READINGS IN JAPANESE CULTURE』（合著・國際文化振興會編、昭和十一年五月十一日三省堂）、『渡邊翁追悼陽明學研究』（合著・木村秀吉編、昭和十二年七月二十日渡邊翁追悼陽明學研究刊行會）、『南支那』（合著・大阪每日新聞社編、昭和十四年二月十五日大阪每日新聞社 東京日日新聞社）、『大草本 伊曾保物語』（飜字、昭和十四年二月一日岩波書店「岩波文庫」）、『日本の言葉』（昭和十五年十一月二十日創元



社「創元選書」）、『國語問題正義』（昭和十八年一月二十日白水社）、『新體制國民講座・第八輯―文學篇』（合著、昭和十八年十一月十一日大阪・朝日新聞社）、『國語文化講座・第二卷―國語概論篇』（合著、昭和十八年十一月十五日朝日新聞社）、『奈良叢記』（合著・仲川森川辰藏編著、昭和十七年一月十日大阪・啟文堂書店）、『食のこころ』（合著・宮崎小次郎編、昭和十七年三月十五日京都・晃文社）、『京小田舍ものがたり』（合著・宮崎小次郎編、昭和十七年五月五日京都・晃文社）、『ちぎれ雲』（昭和十七年九月二十日甲鳥書林）、『日本晴』（昭和十七年十一月八日晃文社）、『高丘親王の御事蹟』（松宮孝良編、昭和十七年十一月十五日高丘親王奉讃會）、『船舶史考』（昭和十八年一月二十五日京都・教育圖書株式會社）、『南方記』（昭和十八年四月二十九日明治書房）、『朝霞隨筆』（昭和十八年五月二十日大阪・湯川弘文社）、『國語の尊嚴（第一輯）』（合著・日本國語會編、昭和十八年五月二十日國民教育社）、『國語の規準』（昭和十八年七月十日啟文館「黎明選書」）、『言語學序說』（昭和十八年七月二十日京都・星野書店）、『聖德太子御年譜』（編、昭和十八年七月二十日京都・山口書店）、『國語學叢錄』（昭和十八年十一月二十五日京都・一條書房）、『菅公頌德錄』（合著・北野神社編、昭和十九年七月二十日京都・宮幣中社北野神社御祭神御生誕一千一百年御鎭座一千年記念大祭奉贊會）、『典籍雜考』（昭和十九年十一月二十五日筑摩書房）、『手向の花束―追河晴子・二葉集』（合著、昭和二十年一月十五日市河三喜編刊）、隨筆『わがふるさと記』（合著・大庭雄編、昭和二十一年十二月十五日京都・北斗書房）、『萬葉芽枯葉』（昭和二十二年一

月）二十五日生活社）、『吉村文丹研究餘録』（日華藝文學會撰、昭和二十三年四月二十日國立書院「國立選書」）、『松笠集』（昭和二十三年八月一日京都・河原書店）、『樂の細道研究』（合著・瀬原退藏編、昭和二十三年九月五日京都・靖文社）、『小言林』（編、昭和二十四年九月二十五日全國書房）、『天皇陛下』（合著・文藝春秋編、昭和二十四年十一月十日文藝春秋新社）、『語源をさぐる・十』（昭和二十六年二月十日岡書院）、歌集『牡丹の園』（昭和二十七年六月十五日楊社）、『廣辭苑』（編、昭和二十年五月）二十五日岩波書店）等。